

園芸用殺虫剤

ロビンフッド®

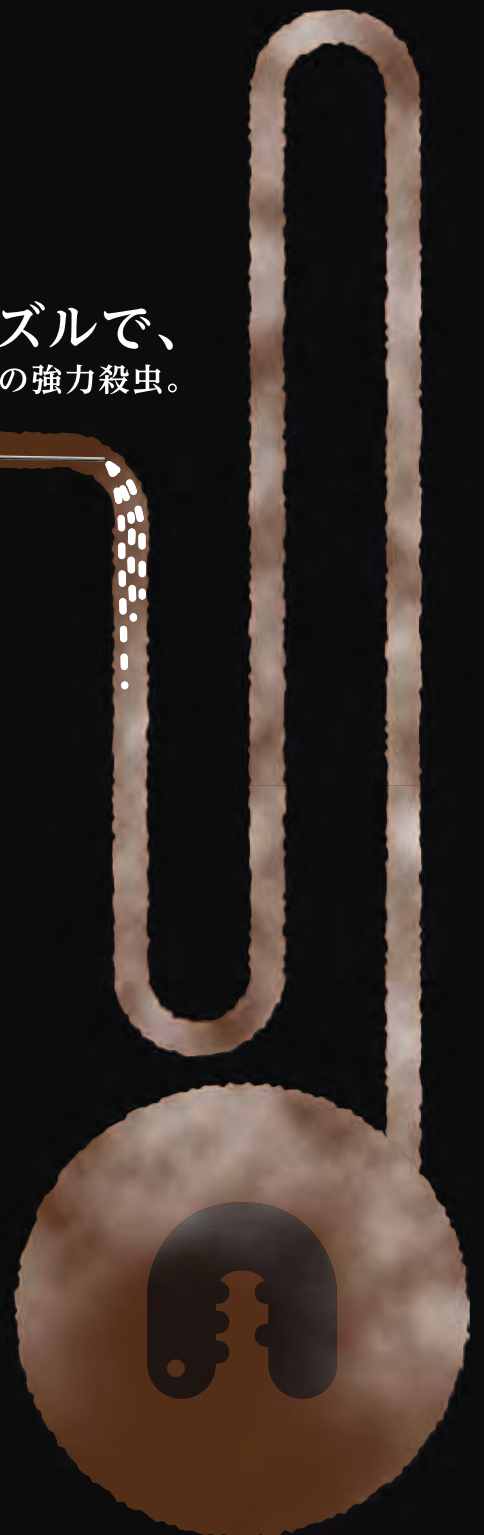
— エアゾール —

ヒメボクトウや
カミキリムシ類を
省力防除



新登場

直接ノズルで、
手間いらずの強力殺虫。



農林水産省登録 第23780号

ロビンフッドは住友化学(株)の登録商標です。

ねらいを定め、 一撃防除。

奥に潜んだ
難防除
害虫に



樹の内部に潜むヒメボクトウなどの難防除害虫にお困りではありませんか？

「ロビンフッド」は、新しい発想の殺虫剤です。

害虫の食入孔にノズルを差し込んで、

ねらい撃ちすることで優れた効果を発揮します。

2ウェイノズルを採用し、ノズル式、噴射式の切り替えもワンタッチで

用途に応じた使い分けが可能です。

難防除害虫の一撃防除には、エアゾール殺虫剤「ロビンフッド」。

常に携帯することで、いつでも、どこでも、あなたの果樹を守ります。



ノズル式



噴射式



2way
ノズル

ロビンフッドの特長

○いつでもどこでも防除できるハンディタイプ

携帯性に優れているので、管理作業の合間でも気軽に防除できます。
また、害虫に応じてノズル式と噴射式が切り替え可能な
2ウェイノズルを採用しました。

○接触毒で高い殺虫効果

接触毒性に優れているので、
食入孔に潜む害虫に高い効果を発揮します。
また、ヒメボクトウでは
フラッシングアウト（追出し効果）が認められることもあり、
食入孔から出てきた害虫は死に至ります。

○低温時でも効果が安定

春、秋などの低温時においても、安定した効果をもたらします。

成分・性状

種類名:フェンプロバトリンエアゾール
有効成分および含有量:フェンプロバトリン0.020%
性状:無色透明液体

安全性

【人畜毒性】
急性経口毒性(噴射物):LD₅₀>2000mg/kg(ラット)
急性経皮毒性(噴射物):LD₅₀>2000mg/kg(ラット)
眼刺激性:刺激性なし(ウサギ)
皮膚感受性:感受性なし(モルモット)
【水産動植物への影響(フェンプロバトリン原体)】
魚類急性毒性:コイ LC₅₀(96時間)0.015 mg/L
ニジマス LC₅₀(96時間)0.00075 mg/L
ミジンコ急性遊泳阻害:オオミジンコ LC₅₀(48時間)0.080mg/L
藻類生長阻害:緑藻 ErC₅₀(0-72時間)>0.0103mg/L

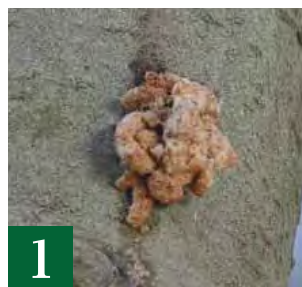
農林水産省登録 第23780号



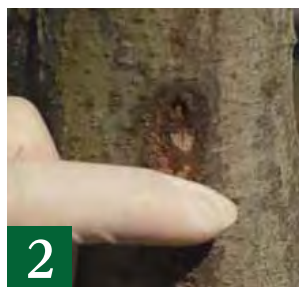
害虫へのねらい撃ちで、シャープな殺虫効果。

りんご、なしの重要害虫であるヒメボクトウなどには、食入孔へのノズル式処理で優れた殺虫効果を発揮します。ここでは、そのノズルを用いた処理方法について、ご紹介します。

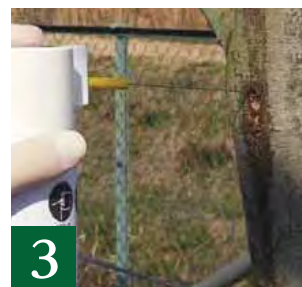
ノズル式処理



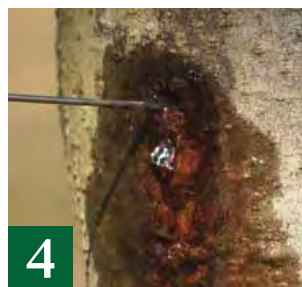
1 フラス（木くず、虫糞）の発生があったら、害虫の食入孔です。



2 指などで食入孔のフラスをできるだけ除去します。



3 ロビンフッドのノズルの先を食入孔に挿入し、噴射します。



4 薬液が逆流するまで2～10秒間噴射することで、樹の中で殺虫効果を発揮します。



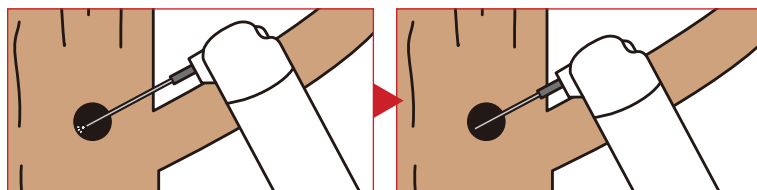
5 ヒメボクトウではフラッシングアウト（追い出し効果）が認められることもあり、食入孔から出てきた害虫は死に至ります。



十分量の薬液を噴射した薬剤到達性試験の結果。中心部まで薬剤が到達しているのが分かります。
（試験用に、薬剤には赤い染料を混合しています。市販の製品の薬液は無色透明です。）

ノズル式処理のコツ

食入孔にノズルの先を差し込み、噴射しながら押し込むことで、ノズルが詰まりにくくなります。



穿孔性害虫の生態および防除のポイント。

穿孔性害虫とは、幼虫が樹木に食入し、樹の内部で成育する害虫です。樹の中にいるため、散布剤での防除が難しく、近年問題が顕在化しています。ここでは、穿孔性害虫のヒメボクトウとカミキリムシ類の生態などをご紹介します。

ヒメボクトウ



ヒメボクトウ幼虫（画像提供：福島県農業総合センター）

生態と被害

成虫は6月下旬～8月中旬頃に発生し、特に7月中旬から下旬にかけては発生量が多いです。成虫は樹皮の隙間などに卵塊を産み付け、卵塊直下から幼虫が食入します。幼虫は集団で枝幹内部を食害するため、樹体に大きなダメージを与えます。また、幼虫期間が羽化するまで2年以上を要すると考えられており、りんごでは被害発生を確認してから2～3年後に主枝または樹全体が枯死する場合があります。特にわい性台木りんごでは主幹部が被害を受けやすいため樹勢が急激に低下し、枯死する被害が多発しています。



ヒメボクトウ成虫
（画像提供：福島県農業総合センター）

カミキリムシ類



ゴマダラカミキリ幼虫

生態と被害

成虫は年1回、6月中旬頃より羽化が始まり、8月まで発生します。成虫による被害は新梢や皮層の加害で、植物体の生育に影響します。幼虫は樹木内部にて1～2年と長期にわたり枝や幹の内部を加害します。孵化直後の幼虫は樹木の外層部を食害しますが、2～3齢幼虫になるにつれ木質部に食い入ります。被害は幼虫によるものが特に大きく、幼虫の食入により、樹勢がおとろえ、収量の減少を引き起こします。



ゴマダラカミキリ成虫

ヒメボクトウ、カミキリムシ類の防除ポイント



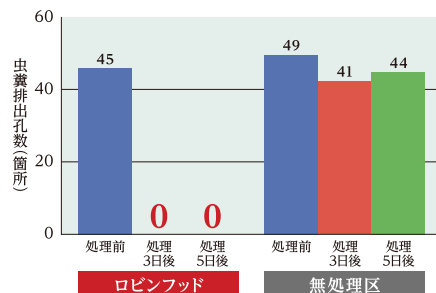
ヒメボクトウの被害によるフラス
（画像提供：福島県農業総合センター）

これら害虫の幼虫は食入孔からフラス（木くず、虫糞）を排出し、若齢時ほど薬剤に弱いのが特徴です。フラスが出ている食入孔を新しく見つけたら、フラスをきれいに除去し、すぐにロビンフッドで防除しましょう。

果樹の難防除害虫に 優れた防除効果。

ロビンフッドは、
りんごやなしのヒメボクトウ、りんごの
カミキリムシ類などに
高い防除効果を発揮します。
速効性に優れるので、
食入孔に気づいた時に処理することで
すぐに効果が確認できます。

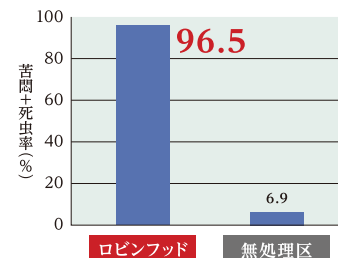
りんご「ヒメボクトウ」への効果



処理3日後には、幼虫の虫糞排出が
ゼロに！

2013年 岩手県農業研究センター園芸試験場
品種:ふじ/JM7およびさんさ/M9、樹齢17年生 区制:1区1樹、3連制 発生状況:多発生(接種) 処理日:6月28日 処理方法:孔外のフラス(木くず、虫糞)を取り除いた後、ノズルを食入孔に差し込みながら、薬剤が逆流するまで、孔あたり数秒間噴射した。調査日:7月1、3日(処理3、5日後) 調査方法:虫糞排出箇所を調査した。

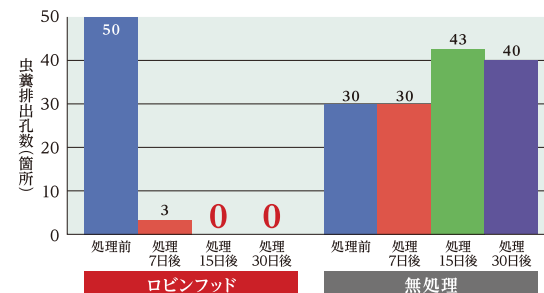
なし「ヒメボクトウ」への効果



処理6日後には、ほとんどの幼虫
が苦悶、もしくは致死！

2014年 秋田県果樹試験場
品種:幸水、樹齢約50年生 区制:1区1枝、5連制(無処理は3連制) 発生状況:多発生 処理日:7月8日 処理方法:フラス排出の有無に関わらず、見つけたすべての孔に、ノズルを差し込み、逆流するまで十分量噴射した。調査日:7月9、11、14日(処理1、3、6日後) 調査方法:処理1日後と3日後に這い出た幼虫を収集し、健全虫、苦悶虫、死亡虫別に計数した。また、処理6日後に供試枝を解体し、同様に計数した。

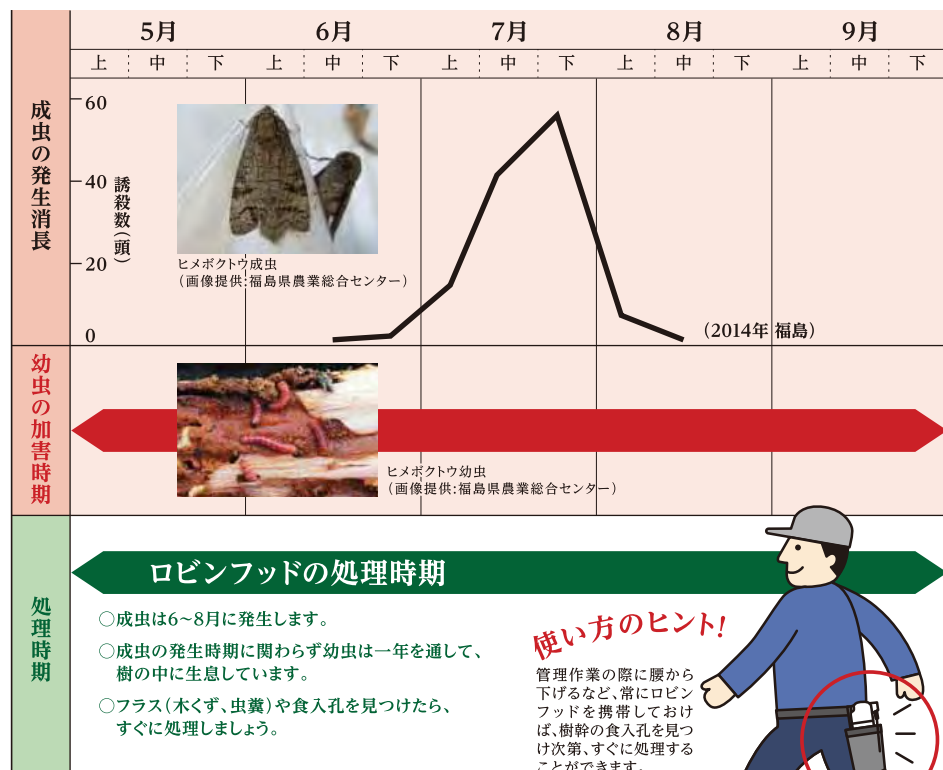
りんご「カミキリムシ類(クワカミキリ)」への効果



処理15日後には、虫糞排出がゼロに。

2013年 福島・総合防除コンサル株式会社
品種:ふじ、樹齢10～15年生 区制:処理区12樹25枝、無処理区22樹29枝 発生状況:多発生 処理日:6月3日 処理方法:虫糞を排出している孔および直近に排出していたと考えられる孔にノズルを差し込み、1孔について5秒ずつ噴射した。調査日:6月10、18日、7月3日(処理7、15、30日後) 調査方法:樹毎、枝毎に虫糞を排出している箇所を計数した。

ヒメボクトウの発生消長とロビンフッドの処理時期(りんご)



適用害虫と使用方法

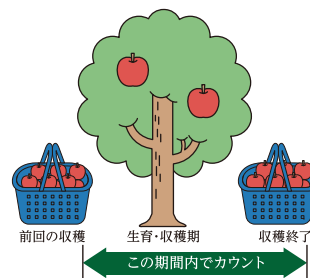
作物名	適用病害虫名	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数
りんご	ヒメボクトウ カミキリムシ類	収穫前日まで	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	2回以内	4回以内 (噴射は2回以内 散布は2回以内)
なし	ヒメボクトウ				
樹木類	ケムシ類	—	噴射	6回以内	6回以内

2016年7月現在の登録内容

使用回数の数え方

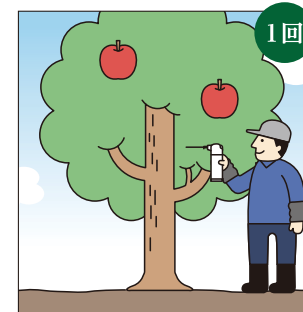
使用回数の考え方

りんごなどの果樹の場合、「本剤の使用回数」および「フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数」は、『収穫終了後から翌年の収穫まで』の期間内でカウントします。



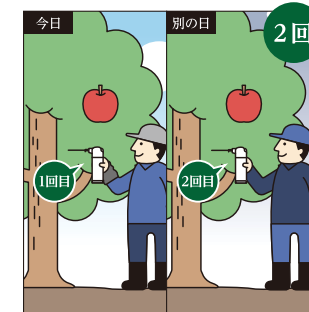
本剤(ロビンフッド)の使用回数 1回とカウントする場合

1つの樹に何回処理しても、1日の作業の中であれば「1回」とカウントします。



本剤(ロビンフッド)の使用回数 2回とカウントする場合

1回目の処理と別の日に処理した場合は、「2回目」とカウントします。



2ウェイノズルの使い方

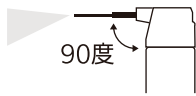
通常噴射

通常噴射する場合はノズルを完全に倒してください。



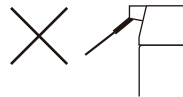
専用ノズル噴射

ヒメボクトウ、カミキリムシ類の食入孔に噴射する場合はノズルを90度起こしてください。



噴射できません

ノズルがななめの状態では使用しないでください。無理に使用すると加圧されたガスが噴出するおそれがあります。



使用上の注意事項



- ヒメボクトウ、カミキリムシ類に使用する場合、以下の点に注意してください。
 - ①幼虫の食入が進むと効果が劣る場合があるので、食入初期に使用してください。
 - ②適用害虫の食入孔にノズルを差し込み、薬剤が食入孔から逆流するまで噴射してください。
 - ③逆流した薬液が果実や葉にかからないように注意してください。
- 樹木類に使用する場合、植物体への近接噴射は冷害を生じるおそれがあるので、30cm以上離れた所から1~3秒間ずつ断続して茎葉が濡れる程度に噴射してください。特に新芽、新葉、蕾、花卉には十分注意してください。
- 日中高温時、強風時、降雨前の使用はさけてください。
- 蚕に長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、桑に付着するおそれのある場所では使用しないでください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。
 - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけてください。
 - ③関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に噴射液がかかると変色するおそれがあるので、噴射液がかからないよう注意してください。
- 使用後の空缶は戸外でボタンを押してガスを出しきったことを確認してから捨ててください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤による中毒の治療法としては、動物実験でメトカルバモール製剤の投与が有効であると報告されています。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。使用後は洗眼してください。
- 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。

火気と高温に注意

高圧ガスを使用した可燃性の製品であり、危険なため、下記の注意を守ってください。

- ①炎や火気の近くで使用しないでください。
- ②火気を使用している室内で大量に使用しないでください。
- ③高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所や火気等の近くなど温度が40℃以上となる所に置かないでください。
- ④火の中に入れてください。
- ⑤使い切って捨ててください。

高圧ガス:ジメチルエーテル

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

